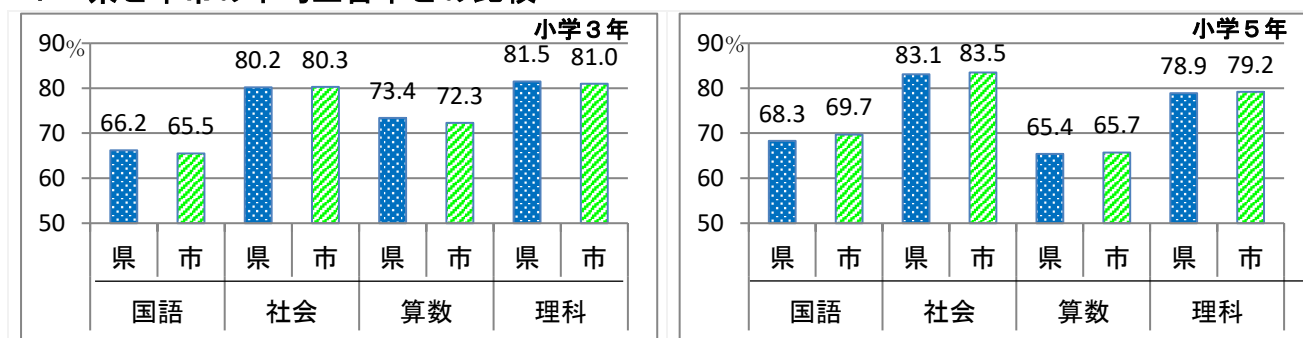


平成30年度千葉市学力状況調査結果概要（小学校版）

1 県と本市の平均正答率との比較



○3年生の国語、算数、理科で県平均を下回ったものの、それ以外の3年、5年の教科については、県平均を上回っている。

2 各教科の改善策

【国語】 目的意識を明確にした言語活動による資質・能力の育成

小学3年

- 伝える相手や目的を明確にして話す言語活動を設定することで、聞き手に分かりやすく話すことを意識した学習を展開する。
- 目的に合わせて音読の仕方を工夫する言語活動を通して、叙述を基に登場人物の行動や気持ちを捉える資質・能力を育成する。

小学5年

- 学習した漢字を積極的に活用できるよう、日記や作文を書くなどの言語活動に継続的に取り組む。また、他教科の学習でも積極的に書く活動を取り入れて定着を目指す。
- 目的や意図に応じて資料の活用や提示の仕方を変える言語活動を通して、効果的な話し方を理解させる。

【社会】 知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の育成

小学3年

- 導入を工夫したり、身近な地域の素材を教材化したりするなどして、社会的事象について興味・関心を持たせ、自ら調べ解決していく問題解決的な学習を充実させ、思考・判断・表現する力を育成する。
- 調査活動や資料、地図から得た知識を比較・関連付けて考えさせ、活用する力を育てる。

小学5年

- 資料、地図を効果的に活用して、事実を正しく読み取らせ、様々な事象を比較・関連付けて考えられるようにする。
- 問題解決的な学習を展開し、多面的な見方で社会的な事象が捉えられるようにする。

【算数】 主体的に取り組む数学的活動のより一層の充実

小学3年

- ねらいを明確にして具体物などを操作したり、根拠を明らかにして説明したりする活動を通して、計算の意味や図形の性質を理解するまでの過程を大切に指導を行う。
- 問題解決に必要な要素や過程などをノートに整理することを通して、順序よく解決する習慣化を図る。

小学5年

- 文脈を理解するために場面を順序よく整理し、絵や図と関連させながら説明する活動を重視する。
- 求積方法を考えたり、複合図形の面積や体積を操作しながら工夫して求めたりする活動の充実を図る。

【理科】 目的意識を持たせた観察・実験と根拠を基にした思考力・判断力の育成

小学3年

○観察・実験の結果を、自然事象や生活経験と結び付けて考えさせるとともに、継続的に観察させたり事実を繰り返し体感させたりする。また、結果から考察する際は、文字だけでなく図や表を使って表現することができるようにする。

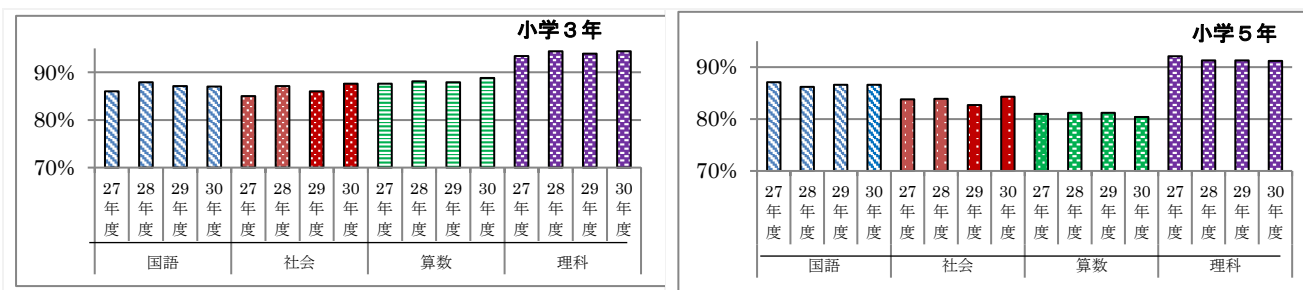
○植物や昆虫を比較する活動を通して、共通点や相違点を見出すとともに、時間の経過による成長の順序や変化を捉えられるように指導の工夫をする。

小学5年

○指導者が器具の操作手順や留意点を十分に確認し、児童の技能の習熟を図るとともに、目的意識を持って観察・実験を行うようにする。

○様々な資料やデータを比較しながら学習を進め、結果や原因を類推し、根拠を基にした思考・判断ができるようにする。

3 学習に対する意識（学校の勉強がわかる）

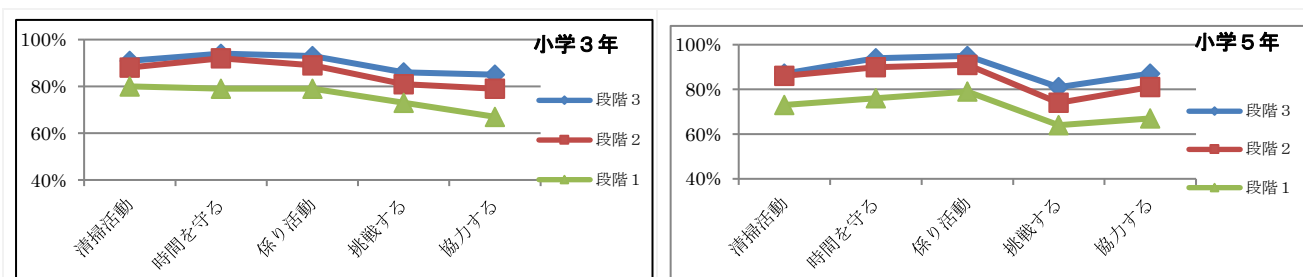


「理科がわかる」割合は91%以上

3・5年ではともに理科の学習がわかるという回答の割合がそれぞれ94%、91%と高い。前年度と比較して肯定的回答率が向上しているのは3年の社会、算数、理科と5年の社会で、3、5年国語と5年理科は前年度と同程度である。5年の算数は、前年度と比べてわずかに低下している。

4 学力と学校生活との関連

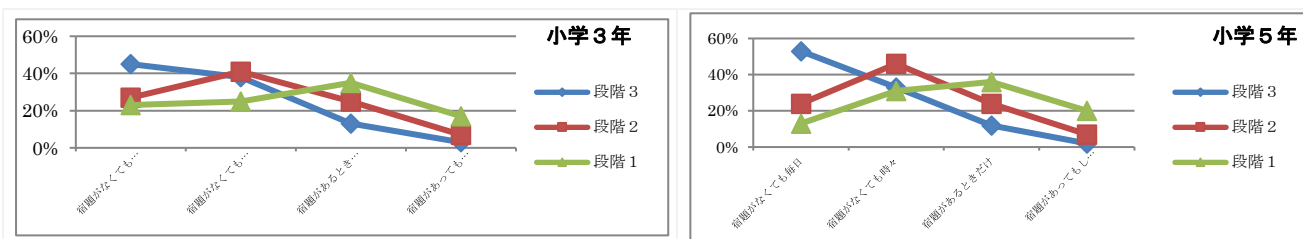
標準偏差により、段階3を成績上位群、段階2を成績中位群、段階1を成績下位群としている。



「成績上位群・中位群」と「成績下位群」で大きな差がある

全学年とともに、「成績上位群・中位群」と「成績下位群」で肯定的回答率の割合に大きな差が見られる。

5 学力と家庭学習との関連



「成績上位群」は家庭学習によく取り組んでいる

「成績上位群」は宿題がなくても毎日、「成績中位群」は時々家庭学習をしている児童の割合が大きい。「成績下位群」では、3、5年ともに宿題があるときだけする児童の割合が大きくなっている。